

川辺ナホ 個展『Save for the Noon / 昼のために』開催のご案内

展覧会名：川辺ナホ 個展『Save for the Noon / 昼のために』

会 期：2018年10月27日（土）～11月25日（日）

オープニングレセプション：10月27日（土）18:00-20:00

・会期中は、水・木・金・土 12-19時、日 12-17時のオープンとなります。（定休日：月火祝）

・本展のオープニングレセプションを、初日の10月27日（土）に開催します。作家も在廊いたします。

なお、レセプション前の時間帯も、通常通り12時からギャラリーはオープンいたします。

会 場：WAITINGROOM (〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2長島ビル1F)

WAITINGROOM（東京）では、2018年10月27日（土）から11月25日（日）まで、川辺ナホの個展『Save for the Noon / 昼のために』を開催いたします。川辺は、ドイツと日本を拠点に活動し、マテリアルの変換をテーマに、映像や複数のオブジェを組み合わせたインスタレーションなど、メディアを横断して作品を制作しているアーティストです。当ギャラリーでは1年半ぶり2度目の個展となる本展では、主に手の反復作業をテーマに、1956年に旧東ドイツから亡命した女性が小さな木炭の塊を紐でもう一度一つの木の形にまとめ上げる過程を撮影したビデオ作品、小説の中のすべての「I(私)」の文字を切り取り網目状に縫い合わせた彫刻作品、床に炭が敷かれたインスタレーション、コンセプトドローイングなど、すべて新作で構成されます。また、2018年11月2日（金）から11月18日（日）まで、福岡のkonya-galleryでも個展『In Other Words / 言い換えると』が同時開催されます。



『Eine echte Frau löst jeden Knoten / 真の女性はすべての結び目を解く』 2018年、シングルチャンネルビデオ、サウンド

作家・川辺ナホについて

1976年福岡県生まれ、現在はドイツと日本を拠点に活動中。1999年に武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業後、2006年にUniversity of Fine Arts of Hamburgを修了。近年の展覧会として、2018年グループ展『Landschaft. Gebrochene Idylle』(Schloß Agathenburg / アガーテンブルク・ドイツ)、2017年個展『The Children of Icarus』(WAITINGROOM / 東京)、2017年グループ展『スマートイルミネーション横浜2017』(象の鼻パーク / 神奈川)、2016年個展『delikatelinien』(Ermekeilkaserne / ボン・ドイツ)、2016年グループ展『The Material of Memory』(Frise / ハンブルク・ドイツ)、『Lifestyles』(Westwerk / ハンブルク・ドイツ)、2014年グループ展『想像しなおし』(福岡市美術館 / 福岡)、2014年個展『piece, piece (with Jane Brucker)』(Port Gallery T / 大阪)、2013年個展『Observer Effect』(Galerie du Tableau / マルセイユ・フランス)、2011年個展『Shiseido Art Egg / Open Secret』(Shiseido Gallery / 東京)などが挙げられ、国内外で精力的に活動しています。

作家ステートメント（抜粋）

「1961年 ベルリンの壁の建設とアポロ計画が始まった」

アポロ計画で使用されたアポロ誘導コンピュータにはロープコアメモリが使われた。磁石を通した銅線をロープのように纏めることで、小さい面積に多くの情報をセーブすることができたからだ。ロープコアメモリは別名LOL/リトルオールドレイディと呼ばれ、メモリの製造を担っていたのは女性の工員たちだった。当時の生産工場の写真を見ると、まるで織物工場のように、女工員たちがひと針ひと針、銅線を基盤に縫い付けて行っている。織る、編む技術は古来から続く人類特有の最も古い技術のひとつだ。そして、そのフレキシブルでどこからでも増幅可能な構造は、現代社会の私たちの生活を覆い、目に見えない紐付けで個人を絡め取ってゆく、システム技術に繋がってゆく。（中略）

ビデオでは、ドイツが分断されていた時代の郵便の行き来やベルリンの東西を横断していた市電網の証言から、境界線は拡大すると実は網目状であり、そこをすり抜けていった住民たちの日常があったことを明らかにする。ベルリンの壁建設と同時期に始まったアポロ計画の残留物は月面着陸という大事業が残したものとしては、滑稽なほど馬鹿らしいものも多い。AmazonのCEO、ペズスは月への再着陸と植民地化計画を進めている。月面に建てられたアメリカの旗は現在全て白旗になってしまっているそうだ。アマゾンは月の砂漠にどんな旗を立てる気でいるのだろう。

川辺ナホ

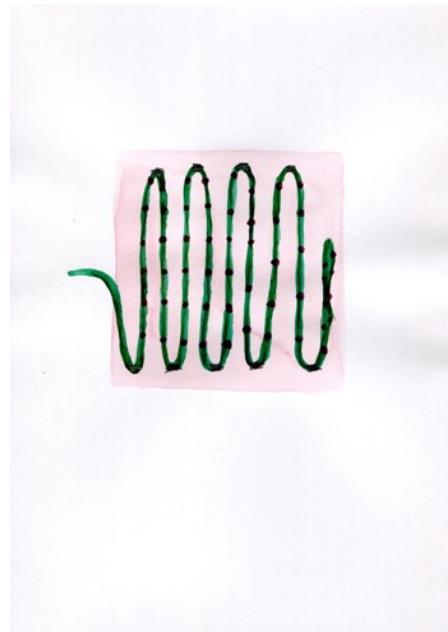
分断し、繋ぎ合わせ、歴史を編む1本の糸

川辺は、制作過程の中で、マテリアルについて慎重なりサーチを行います。物質としての成り立ちや、歴史上の出来事、現代における問題といった社会的文脈を明らかにした上で、異なった位相の情報がいくつも付随するそのマテリアルを「変換」します。分解したり、繋ぎ合わせたり、別のモチーフを表したりといった「変換」を自らの手で行うことが、彼女の作品制作のベースにあります。

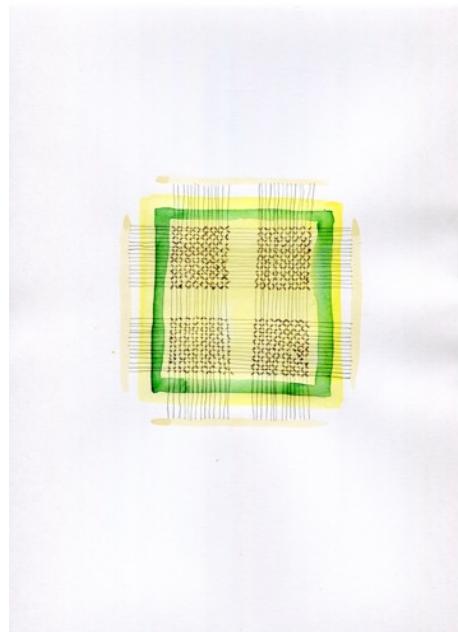
本展覧会で発表される新作群に特徴的なのは、織る・編むという行為です。繊維を縫り糸にして、それを平面にするという、ミニマルで気の遠くなるような作業の反復は、産業革命から半世紀が経った現在も人の手で行われ続けています。川辺の作品は、何億光年もの距離も、何億年もの時間をも越えて、思わずとろに存在することになったモノたちの物語に焦点を当てることで、定められた国境線や月面着陸といった人類の歴史さえも、紛れもなく人間の時間軸の中で編み上げられたものであることを示唆しているようです。

ドイツと日本の2国を拠点に活動する川辺は、例えば時勢によって流動的に分断される国境線のような境界を「ダイナミックな『変換』が絶えず行われ続ける混沌とした場所」と捉えています。「私たちの社会の中にある様々な境界線を観察し、抽出し形にすることは、その時代の輪郭を残すことになるのではないか。」と彼女が考えるように、川辺は適切に選びとられたマテリアルを用い、この時代に、この世界で巻き起こっている「変換」に形を与えることを、作品制作を通して試み続けています。

本展覧会期中に、福岡のkonya-galleryにて、個展『In Other Words / 言い換えると』が同時開催されます。両展覧会を通し、同テーマで発表される川辺ナホの意欲的な新作群を、是非ともご高覧ください。



『Rope Mother』 2018年、水彩、297 × 210 mm



『Rope Mother』 2018年、水彩、297 × 210 mm

同時開催：

川辺ナホ『In Other Words / 言い換えると』

会期：2018年11月2日（金）- 11月18日（日）

（定休日：月）

会場：konya-gallery

（〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名

1-14-28 第一松村ビル2F）

レセプション：11月2日（金）18:30-20:30

※19:00-キュレーター、アーティストによる
ギャラリートーク

企画・制作：正路佐知子

詳細：<http://konya2023.travelers-project.info/1012-28112-18-konya-gallery-10周年企画-ゲストディレクターブログラムvol/>

川辺 ナホ

1976年 福岡県生まれ
現在はドイツと日本を拠点に活動中



個展『The Children of Icarus』2017年、展覧会風景 (WAITINGROOM / 東京)

撮影：天野憲一

個展

2017
The Children of Icarus – WAITINGROOM (東京)

2016
delikatelinien - Ermekeilkaserne (ポン・ドイツ)

2014
piece, piece (with Jane Brucker) - Port Gallery T (大阪)

2013
Observer Effect - Wassermühle (トリッタウ・ドイツ)
Observer Effect - Galerie du Tableau (マルセイユ・フランス)
relation, unscharf - STORE contemporary (ドレスデン・ドイツ)

2012
Blüthenstaub - Port Gallery T (大阪)

2011
Shiseido Art Egg / Open Secret - SHISEIDO GALLERY (東京)

2010
Most things happen in the interval - Port Gallery T (大阪)

2009
StipendiatenArt (with Anne Rinn) - Johann-Friedrich-Danneil-Museum
(ザルツヴェーデル・ドイツ)

2005
Helgoland - Gallery IAF SHOP* (福岡)

2004
dem Anschein nach - Einstellungsraum e.V. (ハンブルク・ドイツ)



《Solaris》2016年

スタニスワフ・レムの小説『惑星ソラリス』(1961年)の中の「I」、
リネンの糸、製本のり、650 x 200 x 150 mm

主なグループ展

2018
Transitions – Frappant (ハンブルク・ドイツ)
Landschaft. Gebrochene Idylle - Schloß Agathenburg (アガーテンブルク・ドイツ)

2017
NEWSPACE – WAITINGROOM (東京)
スマートイルミネーション横浜2017 – 象の鼻パーク (神奈川)
wie es sich ereignet – Naho Kawabe / Hendrik Loeper – Take Maracke & Partner (キール・ドイツ)

↓ <次頁> 作家略歴 (つづき)

主なグループ展（続き）

2016

LIFESTYLES – KUNST aus FUKUOKA, JAPAN - WESTWERK (ハンブルク・ドイツ)
 QMACコレクション展 ON THE WALL - Operation Table (福岡)
 Grenzenlos / Himmlische Perspektiven - Schlosskirche, ポン大学 (ポン・ドイツ)
 The Material of Memory - Frise (ハンブルク・ドイツ)
 ort-m migration memory - Frappant (ハンブルク・ドイツ)
 FIELD of OUR IMAGINATION - Westwerk (ハンブルク・ドイツ)

2015

Von Wörtern und Räumen - Galerie im Marstall (アーレンスブルク・ドイツ)
 Sudden Change of Idea - Union Art Museum (武漢・中国)
 presente / Interchange & Commentary III - Frappant (ハンブルク・ドイツ)

2014

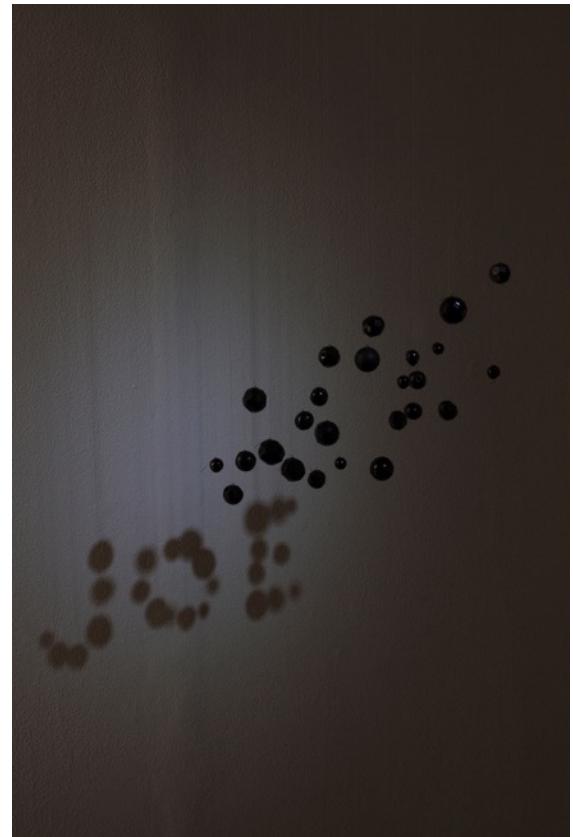
想像しなおし - 福岡市美術館 (福岡)
 Notausgang am Horizont - 8. Kunstfrühling (ブレーメン・ドイツ)
 How Modular Is Now? - Künstlerhaus Sootbörn (ハンブルク・ドイツ)
 Can I ask you personal question? - Sichuan University Art Gallery (成都・中国)
 Bien Merci - Galerie Le Couer (ケルン・ドイツ)

2013

… und Hamburg, was glaubst Du? - Kunsthause (ハンブルク・ドイツ)
 ONE YEAR - Galerie Marstall (アーレンスブルク・ドイツ)

2012

boesner art award 2012 - Märkisches Museum (ヴィッテン・ドイツ)
 Moving Surface - Künstlerforum (ポン・ドイツ)
 Video Violence - Kunsthause (ドレスデン・ドイツ)
 Out of Space - Gallery SUZUKI (京都)
 問い - Port Gallery T (大阪)



《The Black Cloud》 2017年

木、メタル、テグス、紐、プラスティック、紙、ラック、
 2000 x 300 x 400 mm

2011

Archive und Geschichte(n) - ハンブルク現代美術館 (ドイツ)
 JCE: Jeune Création Européenne, with The Bee to Bee Net - パリとその他のヨーロッパ数都市を巡回
 INDEX 11 - (ハンブルク・ドイツ)

2010

Versus Whiteout, with The Bee to Bee Net - Kunsthause (ハンブルク・ドイツ)
 come into sight - Port Gallery T (大阪)

2009

The Bee to Bee Net - Künstlerhaus Sootbörn (ハンブルク・ドイツ)
 Twinism. 20 years partnercity Hamburg/Osaka - Kunsthause (ハンブルク) AD&A Gallery (大阪)

2008

The Bee to Bee Net meets hulahoop - Gallery hulahoop (香港)
 Einlandung - Mecklenburgisches Künstlerhaus Schloss Plüschow (ブリュショウ・ドイツ)
 Wir nennen es Hamburg - Kunstverein in Hamburg (ハンブルク・ドイツ)

2007

Lebe wohl. Suizidalität - Kunst und Gesellschaft, Kunsthause (ハンブルク・ドイツ)
 INDEX 07 - (ハンブルク・ドイツ)

2006

Migration Addict - Sculpture squer (シンガポール)
 Joint the dots - Ben Kaufmann Gallery (ベルリン・ドイツ)
 Plattform#3 - Kunstverein (ハノーファー・ドイツ)



《Untitled》 2011、木炭の粉、2000 x 2000 mm

主なグループ展（続き）

2005

Wintergarden - Raboisen (ハンブルク・ドイツ)

Migration Addict - Warehouse (上海・中国)

2003

Sweet Tune - Hotel Stadt Altona (ハンブルク・ドイツ)

2000

KROM - 世田谷美術館ギャラリー (東京)

1998

World Wide Network Art - アサヒ・スーパードライホール (東京)

アワード&フェローシップ

2013 野村財団・芸術文化助成

2012 Wassermühle Trittau / Sparkassen-Kulturstiftung Stormarn財団

2012 boesner art award 2012 / 審査員特別賞

2011 Shiseido Art Egg Award 05

2009 文化庁・新進芸術家の海外研修

2008 Hamburger Arbeitsstipendium für bildende Kunst

2008 Atelierstipendium der Stadt Salzwedel, Sachsen-Anhalt

2006 Mecklenburgisches Künstlerhaus Schloss Plüschow

2005 Leistungsstipendium für Ausländische Studenten

2001 DAAD

フェスティバル&ビデオスクリーニング

2015

Performance - Artville/Dockvillefestival (ハンブルク・ドイツ)

Transit. Über Medialität und Bewegung - Via Pietro Garzoni 5 (ヴェネツィア・イタリア)

2013

Schwanken und Verschwinden - Via Pietro Garzoni 5 (ヴェネツィア・イタリア)

MEDIA MATTERS - Museum Folkwang (エッセン・ドイツ)

2011

Online-Performance-Session - FOLD Gallery (ロンドン・イギリス)

2010

Kongress für Anders, medibüro - Michaelis-Krankenhaus (ハンブルク・ドイツ)

2007

loop pool - Lounge for shortfilms (オーバーハウゼン・ドイツ)

2005

Berliner Kunstsalon with The Bee to Bee Net - (ベルリン・ドイツ)

Juan Media Festival - (仁川・韓国)

2004

Stand der Dinge - Metropolis Kino (ハンブルク・ドイツ)

2003

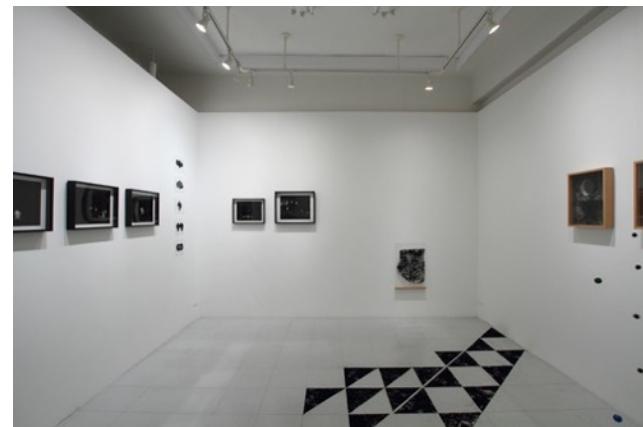
International Short Film Festival - (ハンブルク・ドイツ)

2000

Mukojima EXPO - (東京)



Shiseido Art Egg 個展『Open Secret』2011年
展覧会風景（資生堂ギャラリー / 東京）撮影：加藤健



個展『Blüthenstaub』2012年、展覧会風景 (Port Gallery T / 大阪)
撮影：天野憲一

出版物

『DELIKATELINIEN』2016年、ドイツ

『Observer Effect』2012年、Revolver Publishing、ドイツ

展覧会図録

『Lifestyles』2017年1月、Lifestyles展実行委員会

『ort_m (migration memory)』2017年2月、Revolver Publishing ドイツ

『Von Wörtern und Räumen』2015年10月4日、Stiftungen der Sparkasse Holstein、ドイツ

『想像しなおし』2014年2月10日、福岡市美術館

『Kunst Frühling 2014』2014年5月16日、BBK Bremen e.V.、ドイツ

『BOESNER ART AWARD 2012』2013年、boesner GmbH holdings + innovations、ドイツ

『Moving Surface』2012年、ML Moving locations e.V.、ドイツ

『Shiseido art egg vol.5』2011年5月25日、資生堂 企業文化部

『INDEX 11』2011年11月2日、Index、ドイツ

『EXTRA 3』2010年5月11日、Kunsthaus Hamburg、ドイツ

『The BeetoBee.Net』2010年、The Bee to Bee Net、ドイツ

『TWINISM』2009年、Kunsthaus Hamburg、ドイツ

『WIRNENNEMES Hamburg』2008年10月11日、Kunstverein Hamburg、ドイツ

『28. Hamburg Arbeitsstipendium für bildende Kunst 2008』2008年、ハンブルク市、ドイツ

『index 2007』2007年12月6日、Index、ドイツ

『EINLANDUNG』2007年、Förderkreis Schloss Plöschow e.V.、ドイツ

『VierTakter + X』2005年、EINSTELLUNGSRAUM e.V.、ドイツ



《Meteorit #5》2016年

木炭、アクリルラッカー、ガラス

300 x 300 x 30 mm

掲載記事

小川祥平「揺れ動くものとしての境界提示」西日本新聞、2017年6月15日

Kieler Nachrichten, Jun. 2nd, 2017

正路佐知子「でも僕らは、宇宙にたくさん存在する」、『美術手帖』1053号 2017年5月号、2017年5月1日、p163、美術出版社

吉田杏「エイリアン襲来」によって国境線への意識は変わらぬか? 川辺ナホ『The Children of Icarus』レビュー、2017年4月3日、TOKYO ART BEAT、<http://www.tokyoartbeat.com/tablog/entries/ja/2017/04/naho-kawabe-the-children-of-icarus.html>

「The Children of Icarus」、『美術手帖』1050号、2017年3月号、ART NAVI内、p15、美術出版社

Chr. zu Mecklenburg "Schweben und Schwingen" General-Anzeiger, Jun. 1st, 2016

Hayo Schiff "Geschichten von Geschichte", TAZ, Mar. 5th, 2016

Cem Akalin "Kunst und die Absurdität von Grenzen", General-Anzeiger, Jan. 15th, 2016

Jens Asthoff "Von Wörtern und Räumen", KUNSTFORUM INTERNATIONAL, No.237, Dec. 2015, p314

坂本顕子(熊本市現代美術館)「想像しなおし、うわさプロジェクト」2014年1月15日、artscape、http://artscape.jp/report/curator/10095396_1634.html

南陽子「だまされやすいあやふやなもの」西日本新聞、2014年2月3日

Hayo Heye "Wo Kunst Entsteht", Mar. 22nd, 2013, p36, Revolver Publishing

"boesner art award 2012", KUNST & material (boesner), Jan./Feb. 2013, Jan. 2013

Patrick Niemeier "Beobachter-Effect" mit Blick von außen", Stormarner Tageblatt, Apr. 2nd, 2013

Laura Treskatis "Trittau inspiriert zu Neuem", Hamburger Abendblatt, Jul. 19th, 2012

Bettina Albrot "Kluger Kamerablick auf das Schöne", Lübecker Nachrichten, Jul. 19th, 2012

Patrick Niemeier "Ein Jahr voller Möglichkeiten für die neuen Stipendiaten in Trittau", Stormarner Tageblatt, Jul. 19th, 2012

高嶋慈「光が投げかける、儚く強靭な問い」Peeler、2012年1月、<http://www.peeler.jp/review/1201osaka/>

Ursula Meyer-Rogge "Metamorphosen Künstlerinnen in Hamburg", Dölling und Gallwitz Verlag, 2011, p209-216

Karin Schulze "Naho Kawabe", MONOPOL, Jul. 2009, p23

岡部あおみ「ジャンピング・スーサイド」『美術の窓』297号、2008年5月、p37、生活の友社

Belinda Grace Gardner "Lebe wohl", DIE WELT, Nov. 1st, 2007

パブリックコレクション

Hamburger Kunsthalle

Sparkassen-Kulturstiftung Stormarn

Sichuan University Art Gallery

アーティストウェブサイト

<http://www.nahokawabe.net>

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM (代表:芦川朋子)

住所:〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間:水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日:月火祝

Tel: 03-6304-1877 Eメール: info@waitingroom.jp

Web: <http://waitingroom.jp>